

2019年

## 春の読書感想文・課題作文優秀作品

### 【小学部・読書感想文】

「電池が切れるまで」を読んで

センター北校 N・Aさん(南山田小)

主人公のゆきなちゃん、五才の時に子供のがんの中でも一番多いと言われている神経芽細胞種という病気になった。そして、この本は、辛いという病生活を送りながらも同じ病院に入院している子供たちと楽しい時間を過ごしたりはげまし合ったりして、自分の病気と戦った実話だ。

私は、ゆきなちゃんが書いた「命の詩」の中で、「だから私は命が疲れたと言うまで精一杯生きよう」という文に着目した。ゆきなちゃんは一生自分の命を大切にしてほしいということを私達読者に伝えたかったのだと思う。

ゆきなちゃんは「命」を電池に例えていた。院内学級で乾電池の実験をした時、電池は大切に使うと長持ちする、ということを学んだのだ。だが、命の電池は交かん出来ないことに気が付くと、ゆきなちゃんは自分の命も友達の名も大事にしようと思ひ、病気でまん張ろうという気持ちを忘れなかった。

私はゆきなちゃんの気持ちに共感した。命は生きていくために必要なものだ。だが、命はいつかなくなってしまう。だから、自分の命を大切にしたい方が豊かな人生を送れると思う。

私は三歳の時からぜん息で、肺炎に少なくとも三回かかっている。肺炎になるといつもの倍以上の薬が処方され、中には苦い薬もある。せきが止まらず夜も眠れない日々が続き、とても辛い気持ちになる。だが、ゆきなちゃんはどんなに辛い時でも必死に病氣と戦って治そうとしていた。だから、私もゆきなちゃんのようにぜん息を治すためにがん張ろうと思った。

この本を読んで、改めて命の大切さと戦う強さ、そして治すための努力を学ぶことが出来た。これからも自分の命をむだにすることなく生きていきたいと思う。

### 【中学部・課題作文】

長津田校 S・Kさん(田奈中)

八億二一〇〇万人。これは二〇一七年に発表された世界の飢餓人口の数だ。

九人に一人が飢えに苦しんでいるという計算だが、私たちが日本に暮らしている「飢え」を感じるなど少ないのではないだろうか。しかし、食べ物は無限に湧き出てくるものではない。全国に出回る様々な食品は国内で作られたか、国外から輸入されたかのどちらからかだ。

日本の食料自給率は先進国の中でも特に低く、食料の多くを輸入に頼っている。さらに、食料の品目別の輸入先に着目すると、とうもろこし、大豆、小麦の半数以上はアメリカ、その次にカナダから輸入をしている。小麦や肉など生活の中心となる食料の輸入を特定の国に依存すると、万が一、その国に頼れなくなってしまう場合に私達の生活水準が大きく下がってしまう恐れがある。また輸入が増えることで、日本の農業の衰退にもつながるようになる。

私は以前、テレビ番組で店頭のゴミ箱に多くの食べ残しが捨てられている写真を見た。それは、今流行している「インスタ映え」を狙い、フォトジェニックな食べ物の写真を撮って、完食せずに捨ててしまったというものらしい。それを見たときに悲しい気持ちになったが、「食べ残し」という行為が気にならぬ人は案外多いのかもしれないと思った。

世界の食料援助量の二倍、日本では食料が無駄になっている。私たちが少し気を付けるだけで、飢えている人のもとに食料が届くかもしれないのだ。外食をするときには、自分の食べられるものだけを注文して食べ残しは無くす、賞味期限はこまめに確認するなど小さな心がけでも、食料を無駄にしないで済ませるはずだと思う。私もそのことを心がけるようにしたい。「いただきます」と「ごちそうさま」は何の為にあるのか、今一度よく考えたい。

十日市場校 I・Jくん（十日市場中）

「日本の大豆の食料自給率はなんと7%なのです。」納豆、醤油は日本に欠かせない、そして海外に誇れる食品だと思っていたため、私は驚きとともにショックを隠せなかった。

資料を見ると、主要先進国の中で日本は食料自給率が一番低いことが分かる。世界の先進国と対等に対談を行えるほど日本の世界的地位は高いのに、食料自給率となると遅れをとってしまっている。トウモロコシ、小麦、大豆となると約70%もアメリカの輸入に頼っている。もしアメリカが経済的なダメージを受けたら、また、日本に輸出制限をかけたなら、この国はどうなってしまうのだろうか。私は、いかに日本が外国にもたれかかっていて自立することができていない、とても危険な状態であるかが分かった。

そして、もう一つ私が注目したいのが「食品ロス」という問題だ。日本テレビのバラエティー番組「鉄腕DASH」に、「0円食堂」というコーナーがある。これは少し傷がある、小さいなどの理由で処分されてしまう食物を、農家や肉屋、八百屋や漁師をはじめとする生産者に交渉をして、了承を得ることができれば手に入り、その食材で料理をするという内容だ。その中で驚いたのは、とある回である農家に行った時のことだ。明らかに食べられる野菜が大量に捨てられているのだ。その農家いわく、大量に収穫しすぎたために売価を調整して捨てているのだそうだ。生活をするためなので仕方がないこともある。私は消費者と生産者の間に壁を感じた。需要はあるのにあえてロスを出す。とても悲しい。

また、二〇一五年九月に国連サミットで決められた十七の目標「SDGs」の十二個目に、「作る責任」「使う責任」という目標がある。この目標を達成するために、国や各自治体がいろいろな取り組みをしているが、まずは私たち国民一人一人が責任を感じることが最善だと思う。